

大学院生との交渉

1月以来、大学院生諸君からも学部学生の要求に関連して要望書や公開質問状などが出されていたが、4月9日、大学院自治会執行委員会、同学長交渉実現委員会、同代議員会の名で下記の項目および条件での学長交渉が申しこまれた。

○交渉の要求項目

1. 「紛争」収拾手段として機動隊の導入は行わないことを確約せよ。
2. 公開質問状に完全回答せよ。
3. 大学院自治会を正式承認し、団交権を認めよ。
4. 中教審中間報告（草案）に反対声明せよ。
5. 奨学金採用、支払手続きを引延ばすことなく奨学金前借制を即時実行せよ。
6. 大学院生寮を建設せよ。
7. 研究災害保障制度を確立せよ。

○交渉日時 昭和44年4月12日午後1時より。

○大学当局側出席者 学長、評議員、教務部長、大学院委員長、厚生課長(代理可)

○交渉会場 大岡山に近く200名程度収容できる会場(会場の選定は大学側に一任)

○予備折衝 交渉項目説明、時間、会場、運営などについての予備折衝を交渉の前日までに開く。

4月12日の学長交渉は時間的、物理的に無理であることがあきらかになり、その旨が福与前大学院委員長から大学院自治会執行委員長三友君へ伝えられたが、院生側はこれを学長交渉の「実質的拒否」として4月10日、学長あてに抗議文をよせてきた。この抗議文に対して4月14日、学長名で要旨つぎのような回答が出された。

「大学院諸君への対応がおくれがちとなり、1・31院生集会の決議、2月10日付「公開質問状」に対する回答がいまだに完全な形で出せないことはたいへん心苦しい。しかしこのことは大学院生を軽視している意味ではなく、大学院生もまた学部学生その他と並んで大学を構成する重要な構成単位であると確信する。4月12日の交渉に応じえなかったのは要求項

目第2項の「公開質問状」への回答が学部学生からの要求に関連したもので院生だけを対象にこれを作成できなかったことが主な原因である。この回答は4月16日以降に至急明示したい。そのまゝに要求項目第3項の大学院自治会の正式承認の問題について具体的な説明がほしいので予備的な話し合いの機会をもちたい。」

この回答をもとに4月16日、石川(章)、池田大学院委員会正副委員長と厚生補導委員2名が大学院自治会代表者15名と会い、大学院自治会の沿革、組織、構成、組織率などについて具体的説明をうけた。院生諸君からはこれらの点について資料を出すことが約束され、大学側からは席上での質問にこたえて公認問題を審議するのは教務部長と大学院委員会、厚生補導委員会であり(決定は評議会)、大学院生への窓口は教務部長であることがその後通知された。



ゲバルト春の陣

激しいゲバルト闘争で多数の活動家を逮捕された反日共系全学連各派は、闘争の目標を当面4月28日に予定する「沖繩デー」にしばり、機関紙やビラを利用して活発に宣伝している。「沖繩デー」には、世論の激しい非難を浴びた昨年10月の「新宿騒乱事件」を上回る大規模な闘争を行ない、首都を大混乱におとしいれることが画策されている。このため各派は目下新入生の獲得に懸命で、各大学では自治会や全共闘主催の新入生交歓会が連日開かれ、中旬以降の学生運動は活発になってくることが予想される。これに関連して本学に外人部隊が入って来れば機動隊進入の可能性も極めて高いと予想される。

改調委発足す

2/1学長声明の精神にのっとり、学生等を加えた東京工大改革準備委員会(仮称)を近く設置することになっているが、それに先立ち本学の改革に関して、学長の諮問に応じて教授会メンバーの予備的調査を行なうため、改革調査特別委員会(改調委)が発足し、その第1回が4月14日開かれた。

改調委のメンバーは本委員会が理学部から1名、工学部3名、研究所1名および学長指名若干名から成る。本委員会のほかに管理体系専門委、教育・研究体系専門委、院生・学生の地位専門委などの専門委員会をおき、これらには本委員のほかに専門委員若干名が加わることになっている。

調査が進むにしたがって、いくつかの資料を出すことになろうが、これらは各部署をはじめ関係の向きに配布され、ひろく学内の意見がよせられることを希望している。

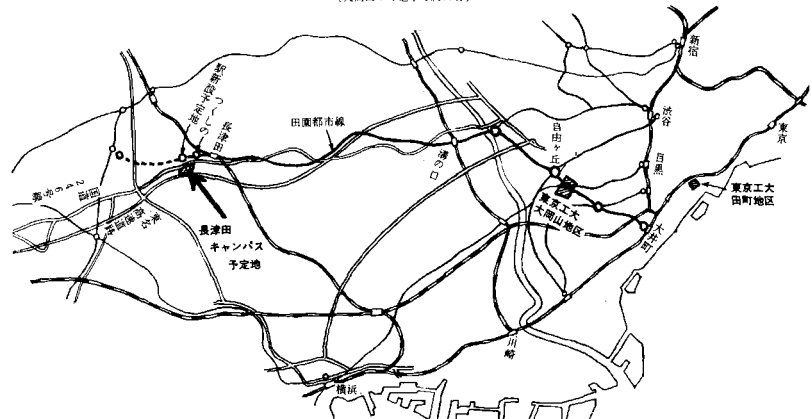
長津田キャンパス計画スタート

田園都市線のつくし野駅(新駅予定)約17万 m^2 (8万 m^2 は購入済み)の緑の丘陵地帯に研究所を主にした第2キャンパスが生れることになり、その推進のために加藤六美教授を委員長とする「長津田地区利用委員会」が発足した。その第1回会合が3月8日に開かれ、会の運営方針、三つの分科会の構成が決まった。第1分科会は大岡山地区との関連も含めて管理運営機構を、第2分科会は大学院のあり方と研究ならびに厚生施設(工大70周年記念の総合研究館を含む)の考え方をとらえる。第3分科会は全体の施設の配置計画、さらに第1、第2分科会で決まった各施設的设计計画の原案の作成を担当する。

委員会は3月28日、4月8日、4月14日と精力的な活動を続けている。引越は工業材料研究所から始まり、数年計画で他の研究所および研究施設が移る予定。

長津田キャンパス位置図

(大岡山から電車で約50分)



用語解説: ゲバルト (Gewalt)

ドイツ語の暴力、強制力から転じ、三派系学生たちの過激な暴力行為をさす。警官隊など、かれらに対抗するものはすべて国家権力の暴力であり、これを粉砕することは暴力しかないとする。67年秋の羽田闘争から本格化し、角材(ゲバ棒)、ヘルメット、石などで武装し、警官隊と衝突、そのつど多数の死傷者を出している。学園紛争やセクト争いでもゲバルトをふるい、学外の「外ゲバ」に対し「内ゲバ」と称している。

(「時事問題の基礎知識69」より)

新入生に理工学特別講義

新入生に対する受け入れ行事の第一着手として、周知のように助言教官制度による学習指導がすでにはじめられている。さらに、本格的な学習開始への努力の一つとして今回理工学特別講義を開催することが決定した。

この理工学特別講義は、1年次学生に専門課程教官との接触の機会をもたせ、専門的研究の本質およびあり方に対する理解を深めるため、それぞれの担当教官が自己の体験、知識にもとづき自由な立場で話すものである。

新入生は総数859名であるが、これを午前(9.30～12.00)、午後(13.30～16.00)の2組にわけ、次表のとおり6つの部屋を使って4月21日より5月2日まで9日間行なわれる。

講師の人選および題目は各学科に一任され、学部および研究所から多数の参加が見込まれている。

なお、この理工学特別講義は例年授業の一環として行なわれているものであるが、単位の取得対象にはならない。今回は学内事情などから平常授業と切り離して特別企画として実施するものであるから、上記の期間に地方から上京および滞在が非常に困難なものについては後日別途考慮される。

なお講義は下記の各学科が担当することになった。

月日 部屋	4月						5月	
	21	22	23	24	25	26	30	1 2
A (48人)	数学	物理	化学	金属・繊維・無機	化工・合成	高分子・応電	機械・生産機械・制御経営	電気・電子・電物
B (48人)								土木・建築・土工
C (48人)								
D (48人)								
E (118人)								
F (119人)								

新入生学部配属きまる

本年度の本学入学者は853名であったが、本人の志望を調査した結果、理学部および工学部への配属はつぎのように決定された。

理学部 127名

工学部 726名+6名(外国入学生および沖縄学生)

なおこの配属は2年次に学科ふりわけになる際、こう束されるものではなく、最終的学部所属は学科ふりわけ後に決定される。

教科書は生協で

本学には学生、教職員により組織される生活協同組合(生協)がある。

現在、生協の書籍部では新入生のため、教科書を必修教科書セットとして販売中である。また必修以外の語学教科書はクラス分けがきまりしだい販売の予定とのことである。(生協に関する詳細は学生便覧P.116参照)

厚生課やむなく引越し

——奨学金・下宿・アルバイト

学園紛争により厚生課事務室は現在なお封鎖が続いているが、このたび仮事務室を設けて、次のように事務を開始することになった。

場所:本館3階8号室(大岡山地区)

電話(726)1111 内線2046

事務内容:

1. 奨学援助に関すること
2. 下宿・貸間のあつ旋に関すること
3. アルバイトの紹介などに関すること
4. その他学寮以外の事務に関すること

なお、学寮事務については問題が解決するまで、この窓口では取扱わない。

○ 奨学金

奨学金関係の諸手続は平常どおり行なわれる予定である。

(イ)日本育英奨学生の募集および諸手続

このことについて下記に応募または該当するものは準備をしておいてください。

事 項	時 期	備 考
一般奨学生の募集(特奨生の追加を含む)	5月初旬受付 ～同月中旬	掲示(予定)により通知する
高等学校などの奨学生であった者の在学届の提出	5月中旬	在学届に記入して提出すること
進学届提出者の増額額と自宅外通学状況報告	"	掲示(予定)により通知する

(ロ)他の育英会

その他の育英会への出願については、その扱い方はまちまちであるから窓口などで相談してほしい。また掲示にも注意するよう心掛けてください。

○ 下宿、貸間のあつ旋

適当な下宿や貸間を求めている学生のために従来から大学周辺に下宿、貸間の開拓、あつ旋を行なってきた。

本年も新入生のため、開拓に努力して相当数の件数を確保し、紹介事務を開始した。ところが、学内紛争にかかわる厚生課事務室の封鎖により機能が麻痺したこと、ならびに授業開始の遅延等により平常の入居移動期を過ぎつつあることなどにより、当初確保したこれらの件数も他大学の学生等により決まり減少している。このような理由で、本年はあつ旋を希望する学生の全てを満足させることはなほだむずかしい現状であり、大学だけに依存せず知人、先輩等ひろく照会するなどの努力もしてほしい。

○ アルバイト

最近のアルバイト求人に対する傾向は専門的な知識と技術をもつ専門課程の学生に対するものが多い。また、比較的長期にわたって毎日就業することを条件とされることが多く実験実習時間の多い本学では平素アルバイトと学業とを両立させることは容易ではない。厚生課では平素の家庭教師や夏季および学年末の長期休暇中に重点をおいて求人開拓と求

職あつ旋に努めている。

しかし、新入生については、学園の事情に疎いこと、また努めて本学の学生生活に慣れてほしいため原則として前学期はアルバイトの紹介をしていない。しかし特別な事情のある者は助言教官を通じ、あるいは直接厚生課に相談してほしい。

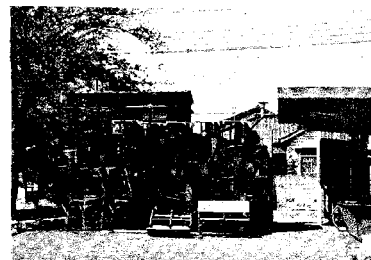
幻のバリケード

4月4日夜、2月末に再度築かれた南門のバリケードは、卒業生らの手によって取り払われた。その後1週間あまり平穏の日が続いていたが、4月13日夕刻6時半より約3時間かかって、全闘委の約12名は南門に3度目のバリケードを築いた。今回のバリケードは、机を整然と積みあげ、針金と3寸くぎで強固に組んだ本格的なものであった。

それもつかの間の午後11時過ぎ、誰かの手で通門の部分が解除され、翌14日早朝までには針金はずたずたに切られていた。

14日午後4時半頃、数名がベンチやくぎぬきでバリケードの撤去を始め、通りかかった教職員、院生らも加わり、たちまち十数名となった。約40分後にはバリケードは完全に排除され、南門は再び開放された。

かくてバリケードは一時的幻と化した。



南門3度目のバリケード(4月14日午後2時)

学外の動き

4/10 北大、東北大、九大、入学式を反日共系学生が妨害。

4/11 山梨大入学式場に放火。京大入学式を全共闘学生が妨害。東大病院脳外科医局を抗議封鎖。広島大文、医学部封鎖。私立大学連盟が「大学における学生の地位、参加」についての見解発表。

4/12 岡山大に機動隊出動、全共闘派学生の投石により警官1名死亡。東京、神田駿河台で学生、機動隊が衝突、126人逮捕。

4/13 東京外大授業再開の延期を発表。和光大学の封鎖、機動隊が排除、8人逮捕。

4/14 学術会議大学問題特別委、「新しい大学像」の中間報告草案を発表。明大全学臨時休校、巻きぞえ逮捕に抗議。東教大理学部授業再開。すわり込み学生25人検挙。埼玉大全学入学式を学部ごとの式に変更。明治学院大全共闘学生、期間試験デモ、守衛負傷。成蹊大経理部封鎖。東大脳神経外科封鎖解除。名工大、七週間ぶりに授業再開。京大全共闘、教養部に反大学自主講座開設を発表。

4/15 帯広畜産大、反代々木系学生が入学式場占拠。名工大、大阪外大の入学式が混乱。京大教養部授業スタートもめる。政府、岡山大事件に強硬態度表明。